

100号  
2024.7.11



青森県高P連調査広報委員会  
題字：八戸東高等学校 諏訪内博彦

青森県高等学校PTA連合会事務局  
〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内  
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587  
E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp



←「高P連公式HP」QRコードからアクセス!!  
http://www.aomori-koupren.com/

# 令和6年度青森県高等学校PTA連合会 十和田大会



大会テーマ

「多様性と幸福」

世界を知り、新しい視点を得よう

6月7日、十和田市民文化センターを会場に青森県高等学校PTA連合会十和田大会が開催されました。大会は上十三地区協議会副会長の中村聖吾氏の開会のことばで開会式・表彰式が始まりました。始めに大会長の高橋尚裕青森県高等学校PTA連合会会長から、青森県が今年4月に策定した、「こどもまんなかあおもり」を「青森県のめざす教育」として紹介がありました。それによると、教職員は「ティーチャー」ではなく、「コーチ」として、こどもたちと対話しながら、青森県の教育を推進していく必要があると

なっている。対話とは、お互いの立場や

意見の違いを認めた上でお互いが歩み寄り、はつきりとした目標設定をもって真剣に話し合うことで「ティーチャー」ではなく、「コーチ」、「会話ではなく対話」という考えは、我々保護者と子どもとの関係においてとても重要なことだと感じていると話されました。その上で、保護者と先生方がしっかりと対話しながらスクラムを組んでいくことも必要だと考えていると挨拶がありました。続いて、上十三地区協議会会長の太田正幸大会実行委員長が「本年は、保護者と教職員がPTAの存在意義を再確認し、本来の活動を取り戻すと共に、将来に向けた展開を模索する初年度とと感じている。保護者と教職員が協力して、家庭、学校及び社会における生徒の健全な成長を願う、改めて活動を認識しあう大会としましょう」と挨拶されました。感謝状・表彰状贈呈では、前PTA会長、PTA活動功労者、退任校長・渉外主任・広報紙コンクール入賞校のそれぞれの代表に授与されました。その後、受賞者を代表して県高P連前会長 葛西孝之氏が受賞の謝辞を述べ、副知事、県教育長、高等学校長協会長の祝辞と十和田市長の歓迎の言葉を頂き、開会式・表彰式は盛会のうちに終了しました。

(調査広報委員長 外崎美光)



青森県高等学校  
PTA連合会  
会長 高橋 尚裕

初めまして。今年度より、青森県PTA連合会会長を務めさせて頂いております。高橋尚裕(しょうゆう)と申します。よろしくお願い致します。

6月7日に行われました、青森県PTA連合会十和田大会には、県内各地から、多数のご参加を頂き、誠にありがとうございました。また、運営して頂いた、上十三地区のPTA会員の皆様、心より感謝申し上げます。

十和田大会の記念講演では、ケニアのスクラムに学校を作る活動をしている早川千晶様をお招きして、非常に貴重なお話を聞くことが出来ました。心に残っているフレーズは「僕にはお父さんも、お母さんもない。お金も、今日食べるものもない。でも夢だけは持っている。それは学校に行くこと。」という、スクラムの子の言葉でした。他の参加者の方もみんな感動され、是非、自分の学校に呼んで、子ども達にも聞かせたいという声があふれており、次につながる非常に良い大会となったのではないのでしょうか。

PTA活動は、保護者・先生の重要な学びの場であり、交流の場でもあります。コロナ禍で、やや下火になったPTA活動ですが、改めて、皆さんが興味を持つ活動、参加しやすい環境を作り、PTA活動が充実することで、今まで以上に子ども達をサポートしていきますので、共に試行錯誤していきましょう。

今年1年、どうぞよろしくお願います。

## 記念講演

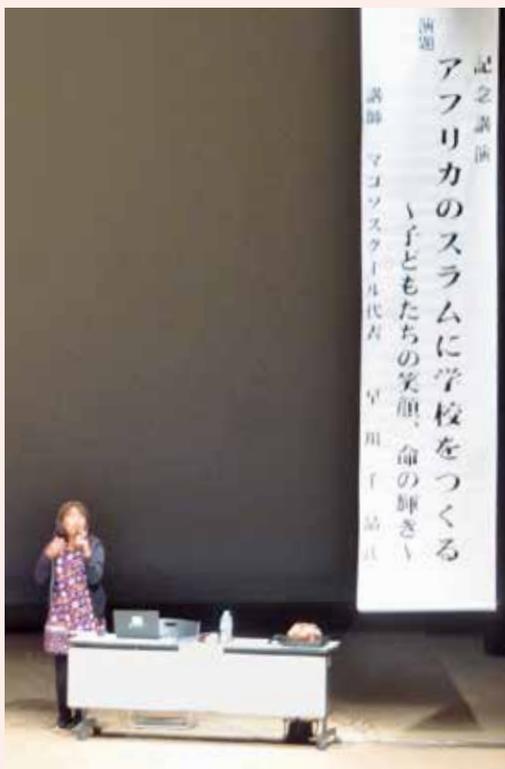
# アフリカのスラムに学校をつくる

子どもたちの笑顔、命の輝き

ケニアに永住し、私たちの知らないケニアのスラム街の中にマゴソスクールという学校を設立し運営している早川千晶さんの講演はあつという間に過ぎ、夢中で聞き入っていました。

早川さんは幼い頃から自分の生き方や居場所に悩み、東京外国語大学時代に、自身の悩みに向き合いつつ、どの世界を旅し、自分が何を目指し、どのように生きるべきかを探求したそうです。特にアフリカ大陸の旅が彼女に衝撃を与え、永住を決意させました。

煌びやかな大都会の隣にはスラム街があり、200万人以上の人々が貧困の中で生活しています。そんな状況にもかかわらず、



私たちは夢を持ち、生き抜いていると早川さんは語ってくれました。「周りの人の病気を治す医者になりたい」「電気がないから電気技師になりたい」「道路がないから作れる人になりたい」と、真剣に夢を抱いている子供たちと接し、最初は約20人の子供たちで始めた小さな寺子屋を作り、母親代わりとして彼らと生きる道を選びました。やがて同じ思いを持つ教師たちが集まり、さらに多くの不遇な子供たちを受け入れ、今では2000人の卒業生と5000人の在校生を抱える学校に成長し、中には会社を立ち上げて社長になった卒業生もいるそうです。

(調査広報委員 磯谷 健二)

## 生徒発表

# 『響喜乱舞』

三本木高校なぎなた部 部長 白岩 希子

三本木高校なぎなた部に高P連十和田大会ステージ発表のオファーがきたと聞いた時はとても驚きました。同時に、県内各地のPTAの皆様の前で貴重な経験を

得られることを嬉しくも思いました。しかし、準備を始めようとする、最後の高体連が間近に控えている中で、あまり多くの時間を費やせない状況でした。それでも、限られた時間の中、部員全員で構成を考え、なんとか準備をすることができました。

当日、緊張しつつも特に大きなミスやトラブルもなく、たくさんの拍手の中、無事に発表を終えることができました。文化祭や十和田市春祭り、三沢基地のジャパNDERなどたくさんさんの発表機会があった3年間の集大成となる思いのラストステージとなりました。

今回の発表で最後に披露した『響喜乱舞』は、私達3年生がリズムなぎなたを初めて披露した思い出の曲です。だからこそ、私達の最後を飾るならこの曲にしよう

と決めました。3年間多くの苦勞もありましたが、なぎなたを広めるために頑張ってきた様々な思いを込めながら最後の大舞台を踊りきり、良い終止符を打つことができました。



まだ私達には、6月末に東北大会があります。東北大会ではこれまでの稽古の成果を十分に発揮し、リズムなぎなたの活動のように、試合でも演技でも悔いの残らない戦いをしたいと思います。最後にこのような素晴らしい機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。また、温かい拍手を送ってくださいました方々、そして今まで三本木高校なぎなた部を支えてくださった全ての方に感謝いたします。本当にありがとうございます。

## 研究協議



本校は、青森市西部地域に立地し、近隣に青森市の玄関口「新青森駅」や三内丸山遺跡があります。  
本校PTAの活動は、生徒の内発力向上のサポート活動を志向しています。

十和田大会の研究協議発表では、本校が積極的に展開している「おもてなし・ボランティア活動」の活動の幅を保護者ネットワークにより広げられた事例を紹介しております。

昨年度のボランティア活動の実績は、「華道部の新青森コンコースへの生け花展示」、「クルーズ船お出迎え」等、延べ41回、参加生徒のべ499名が、様々な奉仕活動に参加しております。昨年度は、PTA会員の所属しているライオンズクラブから次の「おもてなし・ボランティア活動」参加依頼がありました。

1. 小児がん患者のためのケア帽子制作 フェースタオルでケア帽子制作を行い、青森県立中央病院に寄贈
2. 中古メガネリサイクル事業への協力 東青地区小中高校の88校から、1220個の中古メガネの寄付活動に参加

また、近隣の三内中学校区で今年度から「地祭地承 学校ねぶた」地域運行ボランティアの依頼もあり、より活動の幅の拡大が図れております。

従来のPTA活動の枠組みを超え、学校課題・地域課題に向けた展開の一助にPTA活動が展開できれば幸いです。



## 研究協議



本校は、八戸駅に最も近く青森県南部地方の玄関口と言える位置にある学校です。昭和50年に開校し、今年度創立50周年を迎えます。主なPTA活動ですが、一つ目は健全育成委員会による登校時一声運動・街頭指導です。毎年、5月と9月に3日間ずつ行います。二つ目は西高祭での「にしびよんカフェ」の運営です。各学年ごとに商品販売し、売上げは全て生徒会に寄付して生徒会活動に役立てています。三つ目は研修委員会による研修旅行・研修会です。昨年度の研修旅行は、岩手県久慈市を訪れて実施しました。研修会では、「水引しめ飾り教室」を実施しました。普段生徒が食べている学食のランチメニューも体験できるとあって、とても好評でした。四つ目は広報委員会によるPTA新聞「西峰」の発行です。年3回の発行で、5月号は、教職員の写真入りの自己紹介やPTA委員会の紹介。10月号は、西高祭、球技大会、運動会、PTA活動。3月号は、卒業する3年生を中心とした記事を掲載しています。最後になります。最後になります。

### 『できることから「多様性」～生徒は勿論、保護者・教職員も幸せに生活するために～』八戸西高等学校PTA副会長 小田 正徳氏

まだ発展途中の八戸駅西口地区なので地域に密着し、近隣の小・中学校と連携をして、より良い環境作りに尽力し、PTA活動を充実させていきたいと思っています。



## 研究協議



本校は上十三地域にある唯一の商業高校で、「文武両道の三商」「就職・進学両面に強い三商」です。多くの資格を取得しているからこそ、就職で能力を発揮することができます。また、簿記会計に特化した高大連携事業であるHEMIAプロジェクト協定校であり、生徒にとって将来の武器となる会計教育を受ける道も拓け、公認会計士や税理士を目指す生徒もいます。

### 『三沢商業高校におけるPTA活動～きずなを大切に、私たちができること～』三沢商業高等学校PTA会長 田嶋 享氏

常に嬉しく感じております。これからの将来を見据えた生徒の希望や夢に向けてサポートしていくために、さらなるPTA活動の充実を目指していきたいと考えております。

本校のPTA活動のうち、研修委員会は三商祭で模擬店を出店し、PTA役員と共同でおやじのバラ焼きドックを販売します。10年前から単価を変えずに販売しており、生徒・先生・保護者からも大好評です。

学年委員会は学年PTAと進路対策の兼務、広報委員会は年4回広報誌の発行、健全育成委員会は登校時の挨拶運動、といった活動を実施しております。

本校は昨年創立60周年を迎えました。我々PTAも、記念事業を通して共に祝うことができましたことを非常に嬉しく感じております。



# 令和6年度青森県高P連

## 十和田大会を終えて

大会実行委員長 太田 正幸

平日開催であるにもかかわらず、県内各地区より約300名の会員の皆様にご参加いただき、本大会を無事に開催することができました。このことをまずは御礼申し上げます。どのプログラムも大変有意義で素晴らしいものでしたが、記念講演の講師の早川千晶さんから、「大会で行われたスピーチの内容に感銘を受けた。また青森県でPTAの皆様と交流したい。」という旨のメッセージを頂いております。



実行委員長挨拶



生徒発表



受付



開会行事



次期開催地区代表挨拶



広報紙展示



県南高校物販



表彰式



研究協議



記念講演



# 「新しい風になれるように」

鯉ヶ沢高等学校 ゴルフ部

令和4年度、本校の生徒数が最も少なくなった年に少しでも生徒の活動が活発になってくれればという思いからゴルフ部が設立された。一面が芝で覆われた立派な校庭が本校にあったのも設立の一因だった。

当初3名の部員から始まったゴルフ部だったが、彼らにとってゴルフは知っていたけれどせいぜいシニアの娯楽と捉えられていたようだった。しかし、簡単にできるだろうという甘い考えは早々に覆された。まず球に当たらない、当たっても見当違いの方向に飛んでいく等々難しさに翻弄された。それでも難しいことから挑戦する喜びと楽しさを見いだし活動する彼らは明るかった。

一年後には部員も6名に増え、念願だった公式戦に出場することができた。しかし、結果は散々であった。競技としてのゴルフは厳しく、中学校では文化部だった

頑張っています  
我が部活



生徒が10kg

のゴルフバックを担ぎ、約10kmのコースを時には駆け足で回るのである。周囲はジュニアから続けている上級者で、体力的にも精神的にも辛かったと思う。それでも自分が棄権したら、団体戦の記録が残らないという思いで最後まで頑張ってくれた。顧問としてはそのことが何より嬉しかった。そういう先輩の思いが繋がり、現在は部員7名で活動できている。

また、本校ゴルフ部が順調に活動できた背景には地域の方々や鯉ヶ沢町役場、青森スプリングゴルフクラブ等多くの人の支えがあったからである。日々活動できることに感謝し、仲間を思いやる心を忘れずに活動を続けていきたい。そしていつの日か「緑の甲子園」で活躍できることを夢見ている。

(ゴルフ部顧問 柿崎 悟)



## 校 盟 加 紹 紹

# 為すことによって学ぶ「弘高ねぶた」

青森県立弘前高等学校 校長 古川 浩樹

本校は今年創立141年目を迎えるが、「弘高ねぶた」はその半分の71年の歴史を誇る。毎年7月初旬から約10日間は午後5時から翌朝まで、クラスごとに「前灯笼」「人形ねぶた」、「送り絵」の全てを生徒たち自身の手で作りに上げていく。各学年6クラスあるので、その数は18台にもなる。7月下旬の弘高祭の初日に市内約3.5kmを2時間かけて運行し、弘前市に夏の到来を告げる風物詩となっている。

この制作期間中、クラス内では方向性や進行状況など様々な衝突やアクシデントが発生するが、先生方は関与しないし、できない。試行錯誤を繰り返しつつ納得解を見つけたら自分たちで解決し、たった1日だけの運行日には何とか間に合わせる。また、約2時間にわたる交通規制のため



には、弘前警察署（交通規制）、青森県と弘前市（道路使用許可）、弘南バス会社（迂回ルート協力依頼）など行政機関や関係団体への諸手続、協力依頼などが必要であるが、これを昨年からは生徒が主体で行っている。計画の甘さへの厳しい指摘を受けながらも、同時に励ましの言葉もいただく。生徒たちは「自ら積極的に行動を起こすと、物事は実際に前に進む」という社会参画意識と当事者意識を強く認識することになる。



当日、2時間の運行を終えて学校に戻ってきた生徒たちは、一つのことをやり遂げた達成感で感動に包まれる。ただし、ねぶたの宿命でもあるのだが、次の引き取り手（譲渡先）がないクラスのねぶたはその日限りで解体され、解体作業中には泣き出す生徒もいる。

「弘高ねぶた」とは、まさに「Learning by doing（為すことによって学ぶ）」そのものであり、本校が誇る最高の教育プログラムである。

# 青森県教育委員会からのお知らせ

## 青森県の県立高校5校で、全国から生徒を募集しています！

県教育委員会では、県外から目標を持った生徒を受け入れる全国からの生徒募集を以下の5校で実施しています。中学生のお子さんがいる県外在住のお知り合い等がおられましたら、是非ご紹介ください。

鱒ヶ沢高校

柏木農業高校

大間高校

三戸高校

名久井農業高校

令和7年度入学者選抜から全国からの生徒募集に限定した**あおもり留学特別選抜**を実施することとしております。特別選抜は、**一般選抜より早期に実施しますので、合格発表の時期も早まります。**

入試情報はこちら⇒



【入試日程（予定）】

令和7年	出願時期	検査実施時期	合格発表
特別選抜	1月下旬	2月上旬	2月上旬
一般選抜	2月中旬	3月上旬	3月中旬

【5校は「地域みらい留学事業」にも参画しています！】

※地域みらい留学事業

一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが都道府県の枠を越えた高校留学を推進するため、事業参画校による合同学校説明会（オンライン方式、対面方式）等を実施しています。  
 ←詳細はこちら【地域みらい留学HP】



【問い合わせ先】

全国からの生徒募集全般に関すること  
 県教育庁高等学校教育改革推進室  
 TEL：017-734-9866  
 入試に関すること  
 県教育庁学校教育課  
 TEL：017-734-9883

## あなたの「学びたい」を支援します

### ○高等学校等就学支援金制度

高校に通う生徒に対して、教育に係る経済的負担の軽減を図り、教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料等に充てるための高等学校等就学支援金を支給する制度（返済は不要）です。



県立高等学校における「高等学校等就学支援金制度」について

### ○高校生等奨学のための給付金

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、授業料以外の教育費負担を軽減するため、一定の要件を満たす高校生等の保護者等に給付金を給付する制度（返済は不要）です。



国公立高校生等奨学のための給付金について



私立高等学校等の修学支援制度について

問い合わせ先：（公立）各県立高校又は県教育庁学校施設課 TEL：017-734-9873  
 （私立）各私立高校又は県こども家庭部県民活躍推進課 TEL：017-734-9869

## 公益財団法人青森県育英奨学会の事業について

保護者が青森県民で、学業、人物が優れているにもかかわらず経済的理由により修学が困難な生徒及び学生に対し、以下の事業を行っています。

- 高等学校奨学金 ～部活動費、資格試験代、通学費等にご利用ください。  
通学費返還免除制度もあります～
- 大学奨学金 ～学業に安心して取り組める環境を整えることができます～
- 大学入学時奨学金 ～大学入学時に必要となる経費に充てるための奨学金です～
- 青森県学生寮 ～東京で経済的な負担が少なく修学できます～

詳しくは、県HP [青森県育英奨学会](#) で検索      こちらからもアクセスできます →  
 問い合わせ先 青森県育英奨学会（県教育庁教職員課内） TEL 017-734-9879



# 令和6年度 一般会計予算

収入総額 11,969,000円  
支出総額 11,969,000円  
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	6,293,000	事 業 費	6,045,000
内 学 校 制	1,040,000	助 成 費	225,000
	40,000	組 織 活 動 費	2,000,000
	750,000	研 修 ・ 行 事 費	1,800,000
	250,000	負 担 金	930,000
		表 彰 費	250,000
内 会 員 制	5,253,000	会 報 費	840,000
	4,560,000	運 営 費	5,280,000
	630,000	会 議 費	850,000
	630,000	旅 費	2,000,000
内 定 通 ・ 特 別 支 援		印 刷 費	330,000
	63,000	事 務 費	150,000
助 成 金	400,000	通 信 運 搬 費	260,000
繰 越 金	4,275,730	渉 外 費	100,000
雑 収 入	270	慶 弔 費	60,000
受 取 手 数 料	1,000,000	人 件 費	1,350,000
内 学 生 ・ こ ども 総 合 保 険	400,000	使 用 料	100,000
	600,000	雑 費	80,000
内 高 校 生 24 時 間 総 合 保 障 制 度		租 税 公 課	100,000
	600,000	繰 出 金	0
合 計	11,969,000	予 備 費	544,000
		合 計	11,969,000

# 令和6年度 特別会計予算

収入総額 12,681,700円  
支出総額 12,681,700円  
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

項 目	予算額	項 目	予算額
繰 越 金	12,681,500	助 成 金	0
繰 入 金	0	特 別 支 出 金	0
雑 収 入	200	予 備 費	12,681,700
合 計	12,681,700	合 計	12,681,700

## 令和6年度 委員会名簿

委員会名	役 名	氏 名	所 属 校 名	単 P 役 職 名
健全育成	委員長	一 戸 幸 一	弘 前 東	会 長
	委員	二 神 利 絵	青 森	健全育成委員長
	委員	奥 光 幸	八 戸 西	健全育成委員長
	委員	蒔 田 登 紫 行	五 所 川 原 第 一	健全育成委員長
	委員	久 保 田 夏 栄	十 和 田 工 業	健全育成委員長
	事務局長	竹 内 亜 子	弘 前 東	渉 外 主 任
進路対策	委員長	三 代 川 将 仁	三 戸 会	長
	委員	遠 藤 浩 一	青 森 西 会	長
	委員	中 居 良 子	弘 前 中 央	進路対策委員長
	委員	松 橋 俊 一	木 造 会	長
	委員	伊 藤 一 成	大 湊	進路対策委員長
事務局長	竹 原 一 浩	三 戸 渉 外	主 任	
調査広報	委員長	外 崎 美 光	五 所 川 原 農 林	調査広報委員長
	委員	柴 田 真 紀 子	青 森 商 業	調査広報委員長
	委員	石 澤 貴 幸	弘 前 会	長
	委員	坂 本 仁 美	八 戸 商 業	調査広報委員長
	委員	磯 谷 健 一	三 沢 商 業	調査広報委員長
事務局長	岩 田 金 光	五 所 川 原 農 林	渉 外 主 任	
研 修	委員長	中 野 剛 史	十 和 田 工 業	進路・研修委員長
	委員	藤 田 顕 斗	青 森 北	研 修 委 員 長
	委員	小 林 智 香 子	尾 上 総 合 会	長
	委員	齊 藤 紋	八 戸 西	研 修 委 員 長
	委員	原 田 美 佐 子	下 山 学 園	研 修 委 員 長
	事務局長	高 村 奈 々 恵	十 和 田 工 業	渉 外 主 任

# 令和6年度 事業計画

## 活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
  - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
  - 県大会（十和田市）東北大会（山形市）全国大会（水戸市・ひたちなか市・小美玉市）へ積極的に参加する。
  - 各委員会活動を活性化する。
    - 各委員会主管の研修会を充実する。
    - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
  - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
  - 広報活動を拡充する。
    - 広報紙「つながり」（年2回発行）の内容を充実する。
    - リーフレットを新入生保護者に配布し、本連合会及びPTA活動の理解を深める。
    - 本連合会ホームページ（<http://www.aomori-koupren.com/>）により各種情報を提供する。
- 単位PTA及び地区協議会活動を助成する。
  - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
  - 単位PTA会長会議を開催（年2回）し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
  - 高校生の健全育成に取り組む活動を支援する。
  - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
    - 全国高P連賠償責任補償制度、学生・子ども総合保険、高校生24時間総合保障制度の加入率向上に努める。
  - PTA活動の望ましい在り方について調査研究を行い、生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
  - 県教育委員会・県高等学校長協会等と連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
  - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校PTAに対して助成を行う。
  - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
  - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

## 令和6年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	所 属 校 名	備 考
会 長	高 橋 尚 裕	五 所 川 原	
	川 村 隆 義	青 森 商 業	東青地区協議会長
	小 林 智 香 子	尾 上 総 合	中南地区協議会長
	河 村 泰 輔	八 戸 西	三八地区協議会長
	笠 井 理 睦 子	五 所 川 原 工 科	西北地区協議会長
	太 田 正 幸	十 和 田 工 業	上十三地区協議会長
	辻 雅 也	田 名 部	下北むつ地区協議会長
	高 橋 英 樹	青 森	県高校長協会推薦
	山 田 誠 誠	十 和 田 工 業	〃 上十三地区
	野 呂 政 幸	む つ 工 業	〃 下北むつ地区
副 会 長	野 上 淳 一	下 山 学 園	私立高校保護者会推薦 会長推薦
理 事	田 中 正 也	青 森 商 業	
	杉 森 晋	尾 上 総 合	県高校長協会推薦
	黒 坂 孝	八 工 大 第 二	各地区1名
	山 口 正 実	五 所 川 原 工 科	
	千 葉 努	三 沢	
監 事	野 村 美 智 子	野 辺 地 斗	上十三地区協議会
	坂 上 佳 苗	北	県高校長協会推薦
健全育成委員長	一 戸 幸 一	弘 前 東	中南地区協議会
進路対策委員長	三 代 川 将 仁	三 戸	三八地区協議会
調査広報委員長	外 崎 美 光	五 所 川 原 農 林	西北地区協議会
研修委員長	中 野 剛 史	十 和 田 工 業	上十三地区協議会
顧問	葛 西 孝 之		前会長
事務局長	千代谷 均		安全互助会事務局長
事務局次長	長尾 吉 哲		安全互助会事務局次長
事務主任	今 美 智 留		

## 青森県高P連事務局

## 編集後記

近年の生徒数の減少はPTAの会員数の減少でもあり、またコロナ禍によりPTA活動の制約が続きました。5類移行後は従来のPTA活動を取り戻すために保護者、学校がこれまで以上につながりを深くし、子ども達の明るい未来に貢献できるよう願っています。これこそが今回の大会テーマである「多様性と幸福」に通ずるものと考えます。最後に記念すべき「つながり」第100号が無事発刊されたことに調査広報委員会のメンバーをはじめ、事務局の方々、また、たくさんの方の御協力いただき、深くお礼申し上げます。今後も皆様のご協力を仰ぎながら充実した内容を掲載していきたいと思っております。

(調査広報委員長 外 崎 美 光)



## 令和5年度 収支決算書

### ■収益の部

(単位：円)

科	目	決算額
経常収益		18,880,039
うち会費収入		14,803,100
うち雑収入		127,900
うち普通支払備金		3,949,039
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		18,880,039

### ■費用の部

(単位：円)

科	目	決算額
経常費用		22,276,781
事業費		19,412,548
うち学校安全普及事業費		550,000
うち共済金等普及事業		5,957,629
その他の事業費		12,904,919
管理費		2,864,233
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		22,276,781

(単位：円)

正味財産期首残額	126,280,974
当期増減額(a) - (b)	- 3,396,742
正味財産期末残額	122,884,232

## 令和6年度 事業計画

- ◆ 学校安全の普及充実事業  
講習会・研修会の開催や共催、後援
- ◆ 共済金の給付  
死亡共済金・後遺障害共済金・負傷共済金・香料
- ◆ その他目的を達成するために必要な事業  
安全互助会だより62・63号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

## 令和6年度 役員名簿

### ■理事・監事

職名	氏名	所属
理事長	大溝 雅 昭	青森県高等学校PTA連合会元顧問
理事	高橋 英 樹	青森県高等学校長協会会長 青森高等学校校長
理事	田中 正 也	青森商業高等学校校長
理事	益川 毅	三本木高等学校元PTA会長
理事	葛西 孝 之	青森県高等学校PTA連合会前会長
常務理事	千代谷 均	青森県高等学校安全互助会事務局長
監事	對馬 祐 之	三沢商業高等学校元校長
監事	佐々木 悦 男	青森工業高等学校元事務長

### ■評議員

職名	氏名	所属
評議員	山田 知	八戸東高等学校元PTA会長
評議員	黒坂 孝	八戸工業大学第二高等学校校長
評議員	大見 竜 人	むつ養護学校前PTA会長
評議員	蝦名 由紀子	青森西高等学校前PTA会長
評議員	三浦 真 介	弘前高等学校前PTA会長
評議員	加川 香寿美	青森高等学校元PTA会長
評議員	奈良 真 弓	五所川原高等学校前研修委員長

## 令和5年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業 (助成金)	550,000円
(1) 県高等学校体育連盟	100,000円
(2) 県高等学校文化連盟	100,000円
(3) 地区協議会安全教育活動	250,000円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業	5,957,629円
(1) 死亡共済金	0件 0円
(2) 後遺障害共済金	0件 0円
(3) 負傷共済金	316件 5,857,629円
(4) 香料	2件 100,000円

3 その他事業費
(1) 安全互助会だより60号、61号発行
(2) 安全互助会の手引き配布
(3) 新入生用保護者用リーフレット配布

青森県高等学校安全互助会加入生徒数	
全日制	24,198名
定時制・特別支援学校	972名
通信制	413名
総数	25,583名